

【史料紹介】戦前期大阪北新地における芸妓の開業・廃業記録

著者	笠井 純一, 笠井 津加佐
著者別表示	KASAI Junichi, KASAI Tsukasa
雑誌名	人間社会環境研究
号	45
ページ	119-137
発行年	2023-03-31
URL	http://doi.org/10.24517/00068985



【史料紹介】

戦前期大阪北新地における芸妓の開業・廃業記録

人間社会研究域 客員研究員(本学名誉教授)

笠井 純一

人間社会研究域 客員研究員

笠井 津加佐

要旨

本稿で紹介する史料は、大阪北新地において芸妓扱店を経営した佐藤駒次郎(1881~1950)が書き残した、所属芸妓の異動を記す「台帳」である。「台帳」は、1912年から1941年までの30年間にわたって記録され、在籍芸妓は469人に及んでいる。

長期にわたる芸妓異動の記録は、他にもあったはずであるが、知られているものはない。在職年数は、彼女達の勤務状況を知るための基礎資料なので是非とも知りたいところである。その意味で、ここで紹介する台帳は稀有の情報源である。

また「台帳」からは、北新地における芸妓扱店同士の関わりも見ることができる。閉店に伴って所属する芸妓が他店に引き取られたことや、新しく開業する芸妓が、他席芸妓の「妹分」として登録されることなど、扱店を越えた連携が認められるのである。この意味でも、「台帳」は誠に貴重な史料である。

キーワード

永楽席, 佐藤駒次郎, 芸妓の在職年数, 姉芸妓・妹芸妓

Records of Opening and Closing of *Geiko*'s Business in Kita-no-shinchi, Prewar Osaka

Guest Researcher Institute of Human and Social Sciences
(Emeritus Professor at Kanazawa University)

KASAI Junichi

Guest Researcher Institute of Human and Social Sciences

KASAI Tsukasa

Abstract

The document introduced in this paper was recorded by Komajiro Sato(1881~1950), a manager in Kita-no-shinchi, Osaka, and is a ledger of *geikos* in his shop. The ledger is a 30-year record from 1912 to 1941, with the names of 470 *geikos*.

There are no known historical materials, although there should have been one that recorded the movement of the *geikos* for a long period. Since *geiko*'s tenure is a basic material to know their working status, the ledger introduced in this paper is a rare document.

From the ledger, we can learn about the relationship between *geiko* shops in Kita-no-shinchi. When one store goes out of business, another takes over *geikos*. In addition, the newly opened *geiko* is registered as the younger sister of the *geiko* of another shop. In the pre-war period, cooperation beyond the store is recognized in Osaka Kita-no-shinchi. The ledger is valuable historical material in this respect.

Keyword

Eiraku-seki, Komajiro Sato, *Geiko's Tenure*, Geiko who are subjected to sisters

はじめに

本稿は、大阪北新地において芸妓扱店：永楽席を経営した佐藤駒次郎（1881～1950）が書き残した、所属芸妓の台帳を紹介するものである（以下、本稿では「台帳」という。「台帳」は、まず年月日順に、新規開業者および廃業者の源氏名を記し、その後の異動（休業、復業、廃業等）を付記するもので、大正2年（1912）から昭和16年（1941）までの30年間にわたって記録され、在籍芸妓は469人に及んでいる。

長期にわたる芸妓異動の記録は、他の花街や扱店にもあったはずであるが、管見に入ったものはない¹⁾。なお近世の三都では、「遊女名寄」を掲載する遊所細見が頻々と刊行され、そこには芸子（芸者）の源氏名も掲げられるが、同名の店舗に同名の芸子が在籍していても、細見の刊行年が少し離れると、同一人物か否かの判定はかなり難しい。芸子（芸妓）や遊女（近代においては娼妓）の在籍年数は、彼女達の勤務状況を知るための基礎資料と考えられるので、是非とも追究したいところである。その意味で、ここで紹介する台帳には、稀有の情報が盛り込まれている。

また「台帳」からは、北新地における芸妓扱店相互の関わりも読み取ることができる。扱店閉業に伴って所属芸妓が他席に引き取られたことや、新規に開業する芸妓が、他席芸妓の「妹分」として登録されることなど²⁾、扱店を越えた連携が認められるのである。そういった意味でも、「台帳」は誠に貴重な史料というべきであろう。

佐藤駒次郎と永楽席

佐藤駒次郎は大正2年（1912）2月、大阪市北区曾根崎新地の芸妓扱店：磯嶋席を継承した。磯嶋席は明治36年（1903）段階では、芸妓19人を擁する中規模の店舗であったが³⁾、経営者交替に際しては16人が引き継がれている。翌年4月16日、駒次郎は店名を改めて「永楽席」と称した⁴⁾。父：卯之助が開いていた寄席：永楽館⁵⁾の名に因んだものであろう。

以後30年間、駒治郎は芸妓の開業・廃業記事を、丹念に記録し続けた。年末には前年度からの引継人数をはじめ、新規開業・廃業の人数などを集計して表形式で記載しており、これを纏めると表1のようになる。表のうち、「削除」は諸般の事情で籍を削った者、「不納」は遊興税を納付出来なかった者の数を示している。「実数」は「休業」者と「不納」者を除き、実際に営業可能な芸妓の人数である（但し表の「廃業」数には、「整理」「抹消」「死去」者を含んでおり、後掲別表の数値とは一致しない）。

表1によれば、永楽席は次第に営業規模を拡大し、大正期半ばには50人以上の芸妓を擁するに至った。但し大正末年から休業者が漸増し、また昭和初年には「不納」者も増えて、一時は実人数40を下回ることもあった。このような状況に臨み、駒次郎は芸妓の芸質を高めることによって、経営を安定させようと考えていたようである⁶⁾。

しかし日中戦線の拡大は、花街にも深刻な影響を及ぼした。北新地についていえば、大正4年以來復活していた「北陽浪花踊」が、昭和12年を最

表1. 永楽席芸妓数の変遷

元号	年	前年度 引継数	新規 開業	廃業	削除	年度末 在籍数	休業 届	不納 届	実数
大 正	2	16	11	8		19			19
	3	19	21	8		32	6		26
	4	32	9	14		27	6		21
	5	27	14	11		30	3		27
	6	30	18	10		38	4		34
	7	38	30	14		54	5		49
	8	54	16	14	3	53	1		52
	9	53	23	16	1	59	3		56
	10	59	24	17		66	4		62
	11	66	15	15		66	8	3	55
	12	66	23	20		69	9	3	57
	13	69	16	16		69	13	3	53
	14	69	24	19		74	11	7	56
	15	74	10	15		69	14	5	50
	昭 和	2	69	13	15		67	16	9
3		67	11	10		68	18	6	43
4		68	9	8		69	18	6	44
5		69	9	15		63	13	10	40
6		63	9	14		58	12	9	37
7		58	12	16		54	7	4	43
8		54	19	13		60	4		60
9		60	14	20		54	8	2	44
10		54	17	7		64	11	2	51
11		64	19	15		68	7		61
12		68	17	14		71	15		56
13	71	16	13		74	14		60	
14	74	15	21		68	6	6	56	
15	68	11	10		69	3	12	54	
16	69	8	14	1	62	—	—	—	

後に開催出来なくなった。同年秋には大阪の大劇場や寄席の入場者が激減し、ニュース映画館のみが盛況と報じられている。9月9日、大阪府は大衆娯楽の統制をめざす方針を打ち出した。また10月16日には、カフェや遊廓などの自粛自戒を促す大阪府通牒が発せられている。こうした動向を受け、大阪花街の代表者らは昭和13年1月に協議し、「非常時に鑑み」て「春の踊」の中止を決定した。中止は新町廓が率先して決め、堀江・南地もこれに倣ったが、北新地は「別の形式」での開催を模索していたらしい。

昭和16年12月の日米開戦以降、舞踊や邦楽の興行統制は一層厳しくなった。但しその一方で、大阪府保安課は「春の踊」の復活を許可したので、

大阪四花街は連合して名称を「豊国踊」と改め、昭和17年11月1日から18日まで北陽・堀江両演舞場で公演している。しかし翌年3月、四花街は再び「無期延期」を決定した⁷⁾。

このような情勢の中で、永楽席も通常の営業が困難になったものと思われる。「台帳」の記載は昭和16年末で終り、その年には芸妓数の変遷を示す表も付されていない。北新地の芸妓は翌年の「豊国踊」にも参加しているので、永楽席が営業を止めたわけでは勿論ないが、駒次郎は状況の急激な変化に押され、記録することも難しくなったのであろう。南地の大和屋では昭和17年、戦況の深刻化に伴って営業を一時中止し、抱芸妓90人の前借を棒引きして、衣類一通りと小遣錢をもたせて親元に帰した。残った者は軍事工場で働いたという⁸⁾。また田村富子氏の証言によれば、年代は未詳であるが、北新地の芸妓も「挺身隊」として動員され、工場で働いた⁹⁾。

北新地は、昭和20年6月の大空襲で灰燼に帰した。恐らく同年3月の空襲で南地花街などが焼失したのを見て、駒次郎は永楽席関係の物品を兵庫県芦屋市に疎開させたのであろう。そのお蔭で、「台帳」や北陽浪花踊関係の貴重な史料は今日まで残されたが、駒次郎は永楽席の復興を成し遂げることなく、昭和25年4月5日、享年70歳で芦屋に歿した¹⁰⁾。

永楽席芸妓の勤務状況

台帳によれば、「廃業」欄が白紙の者が60余人存在する。彼女らは、営業休止まで永楽席に在籍した芸妓だが、本稿では一応、「台帳」の記載が終了した時点（昭和16年末）で廃業したものと見なして勤続年数を計算し、これを表2.に纏めた。0年は1年未満、1年は2年未満であることを示している。また、この数字は「休業」の期間を含み、芸妓が「再開業」した場合でも勤続年数の合算は行わなかった。

登載芸妓469人のうち、1年未満が28.8%を占め、2年未満の21.5%と合わせると全体の半数以上を

表 2. 永楽席芸妓の勤続年数

勤続年数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	合計	
大正	2	9	6	5	3	1		1																			2	27	
	3	4	9	1	1	1	2	1	1															1					21
	4	2	1	2	1	1					1	1																	9
	5	4	2	1	2		1		1		2						1												14
	6	5	6	2	2		1		1																	1			18
	7	9	5	5	4	1		1			1	1		1	1							1							30
	8	3	4	1	2	1	1			1										1		1	1						16
	9	6	6	4	2	1	1		1			1	1																23
	10	4	7	5		1	1				1	2					1					2							24
	11	4	1	3	1				2		1	1	1						1										15
	12	7	3	2	1	4	1			1	2			1						1									23
	13	4	4			3	1	1	1		1	1																	16
	14	11	4	3		2			1		1	2																	24
	15	3	3					1		1				1			1												10
	昭和	2	4	1	2	2	1	1		1						1													13
3		1	3	2	1	2	2																						11
4		3			3	2							1																9
5		2	4	1	1			1																					9
6		1	2	2	1	1						2																	9
7		3	1				2			1	5																		12
8		5	6		1		4			3																			19
9		4	1		1	1	2	1	4																				14
10		4	4	2		2	1	4																					17
11		10	3		1	1	4																						19
12		6	1	1	1	8																							17
13	2	5	4	5																								16	
14	4	1	10																									15	
15	3	8																										11	
16	8																											8	
合計	135	101	58	36	34	25	11	13	7	14	7	6	3	2	1	2	2	1	1	1	1	2	2	2		1		2	469
比率	29	23	12	8	7	5	2	3	2	3	2	6																	

占めている。しかしその一方で、2～5年の勤続者が32.6%、6～10年の勤続者も11.1%で安定しており、20年以上の勤続者も10人近く存在する。他店との比較は出来ないが、これらの勤続者が花街の芸を支えていたと推測出来る。なお昭和7～16年の欄で、最も勤続年数が高い者（最右端）の数値ほど大きくなる傾向があるが、これは永楽席の営業休止（「台帳」の記載中止）によって、「廃業」扱となった者が多かったことを示している。

勤務状況の詳細な分析は今後の課題であるが、留意すべきことを少し記したい。「不納」と注記された遊興税未納者は47人で、総芸妓数の一割にのぼる（うち「再度」と書かれた者が3人いる）。このうち、「復業」した者が推定を含めて25人い

るが、その他は「廃業」15人、「抹消」4人、「整理」3人となっている。彼女らにとって遊興税は重税であり、仕事を失う一因であった。

「休業」理由は様々であったと推定される。別表には記載できなかったが、「花付」で休業している芸妓が若干いる。恐らく妓籍を残したまま、旦那からの手当てで生活する者であろう。一方、稼業中に死去した芸妓が5人いるので、病気等での休業者も少なくはなかったであろう。その中には、「廃業」を余儀なくされた者もあったと思われる。

「廃業」について付言すれば、彼女らは置屋（芸妓扱店）の経営者に辞意を伝えれば、自由に辞められる訳ではなかった。大正初年に限られるが、

「貸金未済」の理由で籍を削られた芸妓が3人いる。また「向フセケ年」という注記を付された者もあり、前借金や年季奉公の縛りを垣間見ることが出来よう。その後このような注記が見られないのは、永楽席の経営安定によって、芸妓の生活環境も安定したことを示すものかもしれない。また永楽席の経営方針が、芸能中心に傾斜していったこととも関係があるかもしれない。

【註】

- 1) 曾根ひろみ『娼婦と近世社会』（吉川弘文館、2002）は、幕末における丹後宮津遊廓の「酌取女」と「茶汲女」に関わる史料を検討する。酌取女は源氏名を持ち、遊芸を身につけた女性で、京都の花街経由で宮津に来たものが多い。茶汲女は源氏名を持たず、農村出身の者が多い。正確には把握できないものの、酌取女の年季は最長で7年、他は4年以下で短い。宮津町内での抱え主の変更も多い。曾根氏はその理由を、「芸子自身の自立性が相対的に高かったことによるものではなく、むしろ「京都―北陸」間の口入人の活動が活発であったこと、宮津の置屋仲間の力が強く、売れっ子を求めて常に新しい女性たちを得ようとして、客の取れない酌取女たちを早々に親元へ戻したことに由来する」と考察している。示唆に富む見解であるが、中心となる史料は新地の取締役人による2年余りの『御用留日記』であり、「台帳」のように抱え主が30年に亘って書き続けた記録とは異なっている。
- 2) 森つた子『鳶のかけ橋』（私家版、2002）によれば、「同じ席のなかで姉芸者と妹芸者の関係というものがありません。姉芸者というのは、その色まちで一流の芸妓さんですな。名妓といわれる人たちです。（中略）そうした芸妓さんに妹芸者ができますねん。仮に、売れっ子の一流芸者の芸名が「金春」さんとしましょか。そしたら、その姉芸者になってもらう人の「金」か「春」の一字をもらって金奴とか千代春とかいう名前でもらって妹芸者として店出しをします。（中略）いよいよ妹芸者が店出しをする日は、姉芸者もいろいろとお世話でたいへんでした」とある。「台帳」によれば、永楽席の「妹芸妓」は当初、北新地平田席、梶川席、古沢席、大西席、津川席などの名妓を「姉」とする者が多いが、次第に永楽席の芸妓らの「妹」も増えて来る。
- 3) 名倉唯四郎編『浪花廻華』（久保茂吉、1903）。
- 4) 「台帳」大正2年末の芸妓数一覧表に「旧磯嶋席引継 拾六人」とみえるが、「台帳」の「開業」欄は同年2月から始まり、同月に15人、4月に1人の芸妓名が記されている。また大正3年4月16日の項には、「永楽席に改称」と記されている。
- 5) 佐藤卯之助（1853～1923）は、明治33年9月に東京の落語家を大阪に招き、11月には旧「遊芸館」の跡地に「永楽館」を造営した。同館は明治42年に北の大火で焼失するが、直ちに工事に着工し翌年8月に竣工している。しかし大正7年反対派に買収され、翌年には吉本直営の「花月倶楽部」と改称された。
- 6) 駒次郎は北陽演舞場の「技芸部長」に任じ、芸子に厳しく諸芸を仕込んだ。娘の笑子が踊りを習いたいと申し出たところ、「芸妓さんに厳しく接しなければいけないので、身内の者に芸を習わせることは出来ない」と拒んだという（史料所蔵者：佐藤恵氏の談による）。
- 7) 昭和10年代の北陽浪花踊等については、笠井津加佐・笠井純一「北陽浪花踊の新出史料と大阪四花街「春の踊」の変遷」（『人間社会環境研究』32、2016）参照。
- 8) 鷺谷樗風『阪口祐三郎伝』（大和屋、1955）。巻末の「阪口祐三郎年譜」。
- 9) 田村富子氏証言「もうみんな、挺身隊行ってはったよ。私、病気したから、行かんでよろしおました…。朝はよから、芸妓さんが朝はよ起きることないのに…。」（2018年9月22日記録）。
- 10) 佐藤家過去帳による。

「台帳」の体裁

「台帳」は縦23.5cm、横15.9cmの袋綴じ冊子であるが、表紙・裏表紙ともに失われていて本来の題名は未詳である。但し、冊子の小口に「廃開 □」と判読出来る文字が記され、その内容からも、永楽席芸妓の開業を時系列で記録した台帳と判断することが出来る。

料紙は、横罫線で5段に区切られた縦罫紙で、一丁の表・裏に各9行を取り、最上段は15

cmで1行目に「月 日」を、2～9行目には「日」のみを印字する。2～5段目は等間隔に区切られ、印字はない。

駒次郎は第一丁表の2段目に「開業」、4段目には「廃業」と記し、それぞれに該当する芸妓の源氏名を記入している。また3段目には芸妓の本名を記したり、5段目には赤インクを用いて休業・廃業などを記したりするが、年代によって書き様に不統一が見られる。なお1段目の源氏名は、廃業時点で二重赤線を以て見せ消しにしている。さらに欄外(下)には、記入時点での現員数がアラビア数字で付記されている。

本稿は、この「台帳」の内容を、巻末の別表の形で紹介する。

凡 例

- 一、別表は「台帳」登載の各芸妓について、それぞれの勤務状況を知るために作成したものである。可能な限り、「台帳」に忠実な記載につとめた。
- 一、芸妓の本名は個人情報であるので削除し、番号に改めた。番号は4桁とし、大正2年(1913)に開業した芸妓には「13〇〇」のように、上2桁に開業年の西暦の下2桁を付した。
- 一、芸妓の源氏名も個人を特定できる情報であるので、本表からは除いた。「姉妹関係」については、「姉」芸妓の源氏名を数字(01～62)に置き換えた。
- 一、「開業」「廃業」「休業その他」欄の日付は、全てアラビア数字で記載した。また「廃業」の日付は、「開業」年欄と「廃業」年欄の二箇所記されるが、両者は食い違うこともあり、前者は年・月のみを記して日を略することが多い。本稿では、前者は後者を転記したものと考え、後者を採用した。
- 一、「休業その他」欄の「不納」は、芸妓に課された遊興税の不納を示す。また「再」は、廃業した芸妓が再度開業したことを示す。再開業の折には改名することもあった。

一、判読不能の文字は□で示した。

一、その他、適宜類推をお願いしたい。

謝辞

本稿は、JSPS科研費JP21K00849(戦前期大阪における花街の総合的研究—芸能を媒介とする社会関係の形成を視点として—)、JP18K00925(戦前期大阪花街の社会的機能に関する基礎的研究：芸能と社会との関係を中心に)の助成を受けたものです。研究分担者・協力者の方々にも厚く御礼申し上げます。

別表. 永楽席芸妓一覧

No.	姉妹関係	開業	特記	廃業	休業その他
1301		大正2年2月		大正6年1月31日	
1302		大正2年2月		大正2年12月25日	
1303		大正2年2月		大正4年3月18日	
1304		大正2年2月		大正4年5月	
1305		大正2年2月		大正3年6月14日	
1306		大正2年2月		昭和14年3月17日	昭和ヵ9年5月休業
1307		大正2年2月		大正3年4月26日	
1308		大正2年2月	琵琶	昭和14年5月	
1309		大正2年2月		大正2年5月	
1310		大正2年2月		大正2年5月	
1311		大正2年2月		大正2年3月	
1312		大正2年2月		大正5年10月25日	
1313		大正2年2月		大正3年10月13日	
1314		大正2年2月		大正2年11月17日	
1315		大正2年2月		大正2年12月13日	
1316		大正2年4月		大正3年6月13日	
1317		大正2年5月	義	大正8年12月(削)	貸金未済
1318		大正2年5月		大正3年9月18日	
1319		大正2年5月		大正3年4月17日	
1320		大正2年5月		大正5年5月18日	
1321		大正2年5月		大正4年5月	
1322		大正2年6月		大正6年9月13日	
1323		大正2年6月		大正4年6月4日	
1324		大正2年6月		大正2年9月	
1325		大正2年7月1日		大正2年11月17日	
1326	林01妹	大正2年10月1日		大正5年8月19日	
1327		大正2年12月30日		大正4年11月8日	
1401	平田02妹	大正3年1月1日		大正8年7月15日	
1402		大正3年4月3日		大正7年10月21日	
1403		大正3年4月10日		大正4年11月5日	
1404		大正3年5月6日		大正8年(削)	貸金未済
1405		大正3年6月5日		昭和11年8月(整理)	11年5月不納届 昭和3年2月再業 7年7月不納
1406		大正3年6月2日		大正4年10月22日	
1407		大正3年6月22日		大正5年6月22日	
1408	梶川03妹	大正3年7月2日		大正3年11月20日	
1409		大正3年7月2日		大正4年12月23日	
1410		大正3年7月7日		大正3年12月7日	
1411		大正3年7月10日		大正5年4月1日	

1412	古沢04妹	大正3年7月18日		大正9年7月27日	
1413	梶川05妹	大正3年7月22日	義	大正5年4月1日	
1414		大正3年7月22日		大正4年3月10日	
1415		大正3年7月24日		大正4年7月30日	
1416	梶川06妹	大正3年8月28日		大正4年4月10日	
1417	梶川07妹	大正3年9月6日		大正5年3月20日	
1418	吉川08妹	大正3年10月27日	義	大正4年12月17日	
1419		大正3年11月30日		大正5年11月6日	
1420		大正3年12月27日		大正11年11月30日	
1421		大正3年12月20日		大正7年9月5日	
1501	梶川09妹	大正4年1月1日	義	大正14年10月24日	
1502		大正4年4月3日		大正4年9月13日	
1503	大西10妹	大正4年4月28日		大正5年3月1日	
1504		大正4年7月6日		大正6年8月4日	
1505		大正4年8月6日		大正8年2月(削)	大正6年10月休業届 貸金未済
1506	梶川06妹	大正4年10月1日		昭和2年5月14日	大正11年1月休業届 14年12月復業
1507		大正4年10月1日		大正6年12月20日	
1508	大西11妹	大正4年12月16日		大正9年11月22日	「向フセケ年」
1509	大西12妹	大正4年12月21日		大正6年2月26日	
1601		大正5年2月24日		大正6年5月1日	
1602	林01妹	大正5年3月22日		大正8年3月30日	
1603		大正5年4月1日		大正5年6月19日	
1604	梶川03妹	大正5年4月28日		大正5年7月29日	
1605	大西13妹	大正5年7月1日		大正14年8月1日	大正12年6月1日休業届
1606	大西11妹	大正5年7月17日		大正14年11月5日	□年11月休業届 5月ク □年5月復業 12年7月休業 12年10月復業 13年6月 休業届出
1607	14妹	大正5年7月23日		大正8年4月1日	
1608		大正5年8月25日		大正12年11月7日カ	大正10年11月休業届
1609	大西15妹	大正5年10月30日		大正9年8月9日	
1610		大正5年10月25日		大正11年3月30日	再(1320)
1611		大正5年11月14日		大正6年6月29日	
1612		大正5年11月27日		大正7年3月1日	
1613		大正5年12月26日		昭和7年12月(消)	大正15年7月不納
1614		大正5年12月26日		大正6年9月30日	
1701	大西16妹	大正5年12月27日		大正7年12月13日	
1702		大正5年12月29日		大正7年2月25日	
1703	古沢17妹	大正6年1月1日		大正6年5月25日	
1704		大正6年1月20日	舞	昭和16年4月	11年1月襟替 昭和14年4月休
1705	18妹	大正6年2月7日		大正6年12月16日	
1706		大正6年2月10日		大正7年2月1日	改名(1706)
1707		大正6年3月6日		大正7年7月30日	

1708	津川19妹	大正6年4月6日		大正8年11月10日	
1709		大正6年4月29日		大正7年11月26日	
1710		大正6年5月24日		大正8年4月30日	
1711		大正6年7月20日		大正6年11月25日	
1712		大正6年9月3日		大正9年10月23日	
1713	大西11妹	大正6年10月1日		大正7年5月27日(死去)	
1714	大西11妹	大正6年11月15日	舞	大正9年6月10日	大正7年12月襟替
1715	梶川20妹	大正6年12月1日		大正14年7月(死去)	大正10年6月改名 14年6月休業届
1716		大正6年12月16日		大正9年12月30日	再(1509) 大正8年3月休業願済
1717	大西21妹	大正6年12月17日	舞	大正8年3月29日	
1718		大正6年12月26日		大正12年3月1日	
1801	平田22妹	大正6年12月28日	舞	大正8年3月	
1802	大西11妹	大正6年12月29日		大正8年12月5日	
1803		大正6年12月29日		大正8年7月29日	再(1310)
1804		大正6年12月29日		大正7年3月10日	
1805		大正7年2月1日		大正9年4月23日	
1806		大正7年3月11日		大正7年8月29日	再(1702)
1807		大正7年3月16日		大正10年8月23日	
1808		大正7年3月17日	舞	昭和14年12月15日	大正11年12月襟替 昭和4年11月休業 5年5月復業 5年12月休業 6年6月復業 7年10月改名
1809	梶川20妹	大正7年3月19日	舞	昭和2年7月1日	大正11年10月襟替
1810		大正7年4月1日		昭和4年10月	大正13年4月休業 昭和2年4月復業
1811	津川23妹	大正7年4月3日		大正10年11月1日	大正10年8月休業届
1812	林24妹	大正7年4月17日	舞 笛	昭和6年12月	大正11年1月襟替 13年3月休業
1813	梶川20妹	大正7年4月19日		大正9年6月10日	
1814	18妹	大正7年5月8日		大正9年6月22日	
1815		大正7年7月3日		大正10年6月20日	
1816	18妹	大正7年7月11日		大正10年10月1日	
1817	梶川03妹	大正7年7月24日	舞	大正7年10月30日	
1818		大正7年7月29日	琵琶	大正7年9月16日	
1819		大正7年8月26日		大正8年3月	
1820		大正7年10月10日		大正8年10月20日	再(1818)
1821		大正7年10月16日		大正10年9月1日	
1822		大正7年10月28日		大正13年11月1日	大正13年3月休業届
1823		大正7年10月31日		大正7年12月17日	再(1507カ)
1824		大正7年11月3日		大正11年5月11日	大正11年4月不納届
1825		大正7年11月8日		大正8年5月30日	
1826		大正7年11月25日		大正9年2月16日	
1827		大正7年12月8日		大正8年9月20日	
1828		大正7年12月8日		大正8年9月5日	

1829		大正7年12月16日	舞	昭和9年5月	大正10年2月休業届 11年7月改名復業 襟替 11年12月休業届
1830	梶川03妹	大正7年12月23日		大正12年5月22日	
1901	梶川20妹	大正8年3月17日	舞	昭和15年12月	大正11年7月襟替 昭和9年8月休業
1902		大正8年3月28日	儷	大正8年12月5日	大正8年6月休業届
1903	古沢25妹	大正8年4月1日		大正11年6月30日	再々 大正11年3月改名
1904		大正8年5月17日		大正11年4月20日	
1905	大西26妹	大正8年5月19日		大正13年5月29日	大正11年5月休業届 12年2月復業
1906		大正8年5月21日		昭和2年11月	再(1612) 大正11年4月休業届 8月復業 昭和2年10月休業
1907		大正8年5月22日		大正9年3月29日	
1908	大西26妹	大正8年6月10日			
1909		大正8年7月23日		大正10年2月1日	
1910		大正8年8月		大正11年11月27日	大正11年9月休業届
1911		大正8年8月23日		大正9年6月17日	
1912		大正8年9月15日		大正13年9月1日	再(1401)
1913		大正8年10月		大正10年1月31日	再々(1803.1310)
1914	18妹	大正8年11月10日		大正10年6月20日	
1915	津川23妹	大正8年11月27日		昭和14年4月11日	
1916	27妹	大正8年12月12日		大正10年4月11日	
2001	28妹	大正8年12月26日		大正10年7月13日	
2002	梶川03妹	大正8年12月27日		大正10年4月28日	大正9年1月2日開業
2003	18妹	大正8年12月27日		大正11年8月5日(死去)	大正9年1月1日開業 9月休業届
2004		大正8年12月27日		大正9年12月(削除)	
2005		大正9年4月22日		大正9年8月18日	
2006		大正9年4月23日		大正11年12月20日	
2007		大正9年5月10日		大正9年11月5日	再(1607)
2008		大正9年5月10日		大正10年9月1日	
2009		大正9年7月7日		大正13年3月5日	
2010		大正9年7月7日		大正9年12月9日	
2011		大正9年7月8日		大正11年3月15日	
2012	梶川29妹	大正9年7月19日		大正14年11月5日	大正13年3月休業届
2013	梶川29妹	大正9年8月9日		大正9年10月23日	
2014	18妹	大正9年8月27日		大正11年5月30日	大正11年4月不納届
2015		大正9年9月6日		大正12年10月20日	大正9年9月9日開業
2016	18妹	大正9年9月9日		昭和2年11月	大正9年9月15日開業 10年10月休業届
2017	18妹	大正9年10月11日		大正10年1月7日	再(1814)
2018	29妹	大正9年10月16日		大正10年5月29日	大正9年10月31日開業
2019	01妹	大正9年10月21日		昭和5年12月	昭和3年10月休業
2020	20妹	大正9年10月27日		大正12年6月30日	大正9年10月31日開業
2021	03妹	大正9年10月28日		大正13年10月29日	大正9年10月31日開業

2022		大正9年11月22日		大正12年6月30日	大正11年12月改名
2023		大正9年12月24日		昭和6年12月	大正11年9月休業届 11月11日復業 12年□月休業 12年6月復業 14年2月 休業届 14年12月復業 昭和4年3月改 名 6年10月休業
2101	30妹	大正9年12月26日		大正12年5月22日	
2102	31妹	大正9年12月30日		大正10年8月24日	
2103	03妹	大正10年1月10日		大正11年11月24日	大正10年12月休業届
2104	02妹	大正10年3月18日		大正12年8月30日(死去)	大正12年6月休業届
2105	03妹	大正10年3月23日		大正12年3月1日	大正10年5月改名
2106	32妹	大正10年3月25日		大正15年6月	大正12年5月不納届
2107	23妹	大正10年5月19日		大正12年2月15日	
2108	18妹	大正10年7月10日		大正12年2月17日	大正11年7月出走
2109		大正10年7月16日		大正11年9月26日	
2110		大正10年7月23日		大正11年8月(整理)	大正6年7月不納
2111	32妹	大正10年7月23日		昭和7年12月(消)	大正11年11月休業届 □5月15日復業 □3年5月休業届 同年12月復業 15年 1月休業 15年6月復業 昭和3年不納
2112	33妹	大正10年9月1日		大正13年5月29日	
2113		大正10年9月1日		大正11年5月30日	大正11年4月不納届
2114		大正10年10月1日		大正11年3月30日	大正10年12月休業届
2115		大正10年10月10日		大正12年10月26日	
2116	23妹	大正10年10月23日		大正14年11月5日	大正11年3月休業届 5月復業 11年11 月休業届
2117	03妹	大正10年10月25日		大正11年5月29日	大正10年10月31日開業
2118	20妹	大正10年11月8日		昭和14年3月17日	□5年7月休業 9月復業 □年3月休業 8月復業 昭和5年4月休業
2119		大正10年11月10日		大正12年8月23日	
2120		大正10年12月13日		昭和7年12月(消)	大正15年7月休業
2121	25妹	大正10年12月15日			
2122	34妹	大正10年12月21日		昭和5年12月	昭和2年10月休業
2123	35妹	大正10年12月23日			昭和6年7月復業
2124	36妹	大正10年12月23日		大正13年2月29日	大正11年4月不納届 6月改名再出 11 月不納届
2201		大正10年12月26日		昭和4年8月	昭和2年5月休業
2202	大西37妹	大正11年2月16日		昭和7年1月	昭和5年4月休業
2203	高田屋38妹	大正11年4月11日		昭和4年6月11日	大正14年11月休業届
2204	平田33妹	大正11年4月11日		昭和9年12月18日	大正11年4月11日鑑札下付 23日開業 15年4月休業届 昭和8年12月復業 9年1月休業
2205	18妹	大正11年4月17日		大正13年5月29日	大正11年8月末不納届 9月復業
2206		大正11年5月8日		大正12年9月20日	
2207	津川23妹	大正11年7月8日		大正14年6月	
2208	伊東29妹	大正11年8月4日		大正11年12月5日	大正11年12月休業届出

2209		大正11年8月10日		昭和10年5月25日	昭和4年1月改名 4年9月不納 4年12月復業 5年1月改名
2210		大正11年9月1日		大正12年7月29日	再(1811)
2211		大正11年10月18日		大正12年4月30日	
2212	平田33妹	大正11年10月31日		大正15年2月	
2213	平田33妹	大正11年11月9日		大正13年12月8日	
2214	伊東09妹	大正11年11月18日		大正11年12月21日	
2215		大正11年12月8日		昭和15年6月29日	
2301	大西37妹	大正11年12月26日	舞	大正14年9月1日	大正11年12月29日開業
2302	古沢39妹	大正11年12月29日		昭和3年4月	
2303	大西40妹	大正12年2月2日	義	昭和6年5月	昭和2年1月休業 4月復業 4年3月休業 5年10月復業
2304		大正12年2月15日		大正13年9月1日	再(1714) 大正12年3月10日開業
2305	大西40妹	大正12年3月5日	義	大正14年12月16日	
2306	津川23妹	大正12年3月21日			
2307	伊東03妹	大正12年3月27日		昭和11年8月(整理)	大正14年2月休業届
2308	18妹	大正12年4月2日		大正13年3月5日	
2309	平田02妹	大正12年4月22日		昭和2年11月	大正12年6月30日休業届 廃業
2310		大正12年5月21日		大正12年12月7日	
2311		大正12年6月14日		昭和7年12月(消)	大正12年8月30日休業届
2312	平田33妹	大正12年7月23日		昭和2年2月15日	
2313		大正12年10月2日		大正14年5月9日	
2314		大正12年10月8日		昭和2年11月1日	
2315	津川23妹	大正12年10月26日		昭和3年3月	昭和2年12月休業
2316	伊東03妹	大正12年10月26日		大正12年11月30日	
2317	大西40妹	大正12年11月6日		大正13年4月30日	
2318		大正12年11月7日		大正13年4月30日	
2319	津川23妹	大正12年11月15日		大正13年11月1日	
2320		大正12年11月15日		大正13年11月1日	
2021		大正12年11月16日		大正13年12月24日	
2322		大正12年12月7日		昭和7年12月(消)	8月不納届
2323	伊東20妹	大正12年12月18日		昭和3年7月カ	昭和2年5月休業 3年1月復業 3年6月休業
2401	伊東20妹	大正12年12月27日		大正14年11月5日	
2402		大正13年2月1日		昭和9年5月	昭和2年3月不納
2403	伊東20妹	大正13年2月6日		昭和5年12月	昭和4年9月休業 5年1月復業
2404	永井41妹	大正13年3月5日		昭和5年1月27日	昭和2年□月不納 3年9月復業
2405	伊東03妹	大正13年5月6日		昭和3年12月	
2406		大正13年5月7日		大正14年10月24日	再(1404) 大正13年11月休業
2407	永井42妹	大正13年5月8日		大正13年10月29日	
2408		大正13年6月25日		昭和3年12月	昭和3年3月不納

2409		大正13年11月1日		昭和5年7月15日	昭和元年12月30日休業 2年10月復業 3年8月休業 4年2月復業 再(2318)
2410	伊東20妹	大正13年12月2日		昭和9年10月	昭和6年10月休業
2411	平田33妹	大正13年12月2日		大正14年6月	
2412	43妹	大正13年12月3日		大正14年11月	大正14年11月不納届 廃業
2413	20妹	大正13年12月21日		大正15年2月	
2414	33妹	大正13年12月21日		大正14年3月15日	
2415		大正13年12月21日		昭和6年12月	大正15年12月改名 昭和3年5月休業 11月復業 5年5月休業
2416	25妹	大正13年12月23日		大正15年10月	大正14年5月休業届 11月復業 15年9 月不納
2501	平田33妹	大正13年12月26日		大正15年9月1日	大正15年8月休業届
2502	44妹	大正13年12月27日		大正14年10月	
2503		大正14年2月		昭和2年11日	大正15年6月不納 10月改名復業 昭和2年8月不納 廃業
2504		大正14年2月15日		大正14年3月30日	
2505		大正14年4月		大正14年8月1日	再(2105)
2506	平田33妹	大正14年5月9日		昭和5年2月7日	
2507	津川23妹	大正14年7月1日		昭和10年11月	8年7月休業 9年5月復業
2508		大正14年7月1日カ		大正15年6月	大正14年11月不納
2509		大正14年7月31日		大正14年12月25日	
2510		大正14年8月1日		大正15年6月	大正14年11月不納 15年1月復業 4月 不納
2511		大正14年8月		昭和2年12月27日	
2512		大正14年9月1日		大正15年11月10日	
2513		大正14年9月3日		大正15年4月9日	
2514		大正14年9月4日		昭和7年12月(消)	大正14年11月不納届
2515		大正14年9月4日		大正15年4月9日	
2516		大正14年9月5日		昭和3年5月	再(1805)
2517		大正14年10月9日		大正14年12月25日	
2518		大正14年11月4日		大正15年7月	
2519	18妹	大正14年11月8日		昭和11年8月(整理)	再(1914) 昭和2年4月休業
2520	44妹	大正14年11月17日		昭和10年6月27日	昭和9年6月休 9月復業
2521	44妹	大正14年11月21日		昭和5年4月	再(2401) 昭和3年2月休業 廃業
2522	永井42妹	大正14年12月5日		昭和2年11月	大正15年8月不納
2523	津川23妹	大正14年12月5日		昭和2年8月30日	再(2207)
2524		大正14年12月5日		大正15年9月1日	大正15年7月休業
2601	44妹	大正14年12月26日		大正15年10月30日	
2602	44妹	大正15年1月		大正15年11月10日	
2603	44妹	大正15年7月23日			昭和2年11月休業 3年6月復業
2604		大正15年10月4日		昭和9年12月18日	再(2518) □年6月休業 3年9月復業 5年1月休業 7月復業 7年2月休業

2605		大正15年10月25日		大正15年12月	再(2103) 大正15年12月休業 廃業
2606		大正15年10月		昭和2年11月	昭和2年10月不納
2607	45妹	大正15年11月2日		昭和2年11月	昭和2年7月休業 廃業
2608		大正15年11月12日		昭和14年2月28日	再(1830) 昭和8年7月改名 10年2月休業 9月復業 12年11月不納一時
2609		大正15年12月		昭和2年12月3日	
2610	46妹	大正15年12月		昭和7年12月(消)	昭和2年2月休業
2701	47妹	昭和2年1月17日		昭和6年10月27日	
2702	44妹	昭和2年2月		昭和2年4月2日	
2703	44妹	昭和2年3月2日			昭和3年8月休業 4年9月復業 5年1月休業 6年2月復業
2704		昭和2年3月3日		昭和4年4月29日	再々(1714、2304)
2705		昭和2年3月24日		昭和3年5月	昭和2年6月休業 3年2月改名復業
2706	48妹	昭和2年4月2日		昭和3年3月	
2707	44妹	昭和2年4月4日		昭和5年4月	
2708	45妹	昭和2年4月7日		昭和5年4月	昭和2年10月不納 廃業
2709		昭和2年5月2日		昭和2年11月	昭和2年8月不納
2710	44妹	昭和2年5月1日		昭和2年12月1日	
2711		昭和2年5月7日		昭和10年4月23日	
2712	23妹	昭和2年10月		昭和8年8月31日	
2713		昭和2年12月3日		昭和5年11月	昭和2年10月15日鑑札下付
2801	45妹	昭和2年12月26日		昭和5年6月7日	
2802	44妹	昭和3年2月13日		昭和8年4月8日	
2803	44妹	昭和3年3月8日		昭和7年12月	□年8月休業 □年7月復業 同月休業 10月復業 6年9月休業
2804	45妹	昭和3年3月8日		昭和7年12月(消)	昭和6年10月休業
2805	44妹	昭和3年3月8日		昭和8年8月30日	
2806	45妹	昭和3年5月1日		昭和4年12月	昭和4年7月休業 廃業
2807		昭和3年5月2日		昭和3年12月	
2808		昭和3年6月		昭和6年12月	昭和5年4月休業
2809		昭和3年7月7日		昭和5年1月24日	昭和5年1月休業 廃業
2810		昭和3年10月1日		昭和4年11月	
2811		昭和3年12月		昭和6年4月	
2901		昭和4年2月9日		昭和8年8月11日	再(大正4年開業 昭和2年5月廢) 7年11月休業 8年2月復業
2902	49妹	昭和4年4月12日		昭和4年6月30日	
2903		昭和4年4月29日		昭和7年7月	
2904		昭和4年5月4日		昭和7年12月(消)	昭和5年4月不納
2905		昭和4年5月11日			昭和14年7月休業 16年5月復業
2906		昭和4年5月16日		昭和7年12月(消)	昭和5年4月不納 休業中不納届
2907		昭和4年8月8日		昭和5年4月	昭和4年12月不納 廃業
2908		昭和4年12月18日		昭和9年5月30日	

2909		昭和4年12月18日		昭和5年6月(4年12月)	
3001		昭和4年12月26日		昭和8年7月1日	
3002		昭和5年4月7日		昭和7年12月(消)	昭和5年6月不納
3003		昭和5年4月7日		昭和6年4月	
3004		昭和5年4月11日		昭和11年11月26日	昭和8年6月休業 12月復業 9年12月復業 11年5月復業
3005		昭和5年4月21日		昭和5年9月	
3006		昭和5年5月6日		昭和6年5月ヵ	昭和5年8月不納
3007		昭和5年5月6日		昭和6年4月	
3008		昭和5年6月2日		昭和7年3月	
3009		昭和5年11月1日		昭和6年12月	昭和6年6月休業
3101	45妹	昭和6年6月10日		昭和7年7月	
3102		昭和6年7月1日		昭和9年12月18日	昭和9年5月休業
3103	50妹	昭和6年10月1日			(大正12年12月開業 昭和3年廃業)
3104		昭和6年10月11日		昭和10年12月18日	昭和9年10月不納
3105		昭和6年10月16日		昭和7年1月	
3106		昭和6年10月17日		昭和7年12月30日	昭和7年6月不納
3107		昭和6年12月1日			昭和7年9月改名 昭和10年8月休業 12月復業
3108	51妹	昭和6年12月3日		昭和9年6月	昭和9年4月休業
3109	03妹	昭和6年12月13日		昭和9年6月	
3201	51妹	昭和7年3月3日		昭和16年4月	昭和8年7月不納 9月復業 14年9月休業 11月復業 15年6月休
3202	51妹	昭和7年4月18日		昭和15年9月28日	昭和13年4月休業
3203	44妹	昭和7年5月26日		昭和13年5月12日	昭和11年7月休業 13年1月復業
3204	44妹	昭和7年7月8日			
3205	51妹	昭和7年10月1日			
3206	51妹	昭和7年10月8日		昭和8年12月21日	昭和8年6月休業 8月再業 12月不納
3207	51妹	昭和7年11月18日			
3208		昭和7年11月19日		昭和8年4月13日	
3209	44妹	昭和7年11月28日			
3210	51妹	昭和7年11月28日		昭和8年9月1日	昭和8年7月休業
3211	51妹	昭和7年12月1日		昭和13年7月	昭和12年11月一時不納
3212		昭和7年12月3日		昭和8年11月	昭和8年6月休業
3301	52妹	昭和7年12月28日		昭和8年9月1日	昭和8年7月休業 廃業
3302	53妹	昭和8年1月21日		昭和15年12月6日	昭和8年11月休業
3303		昭和8年2月16日		昭和8年7月1日	
3304	51妹	昭和8年3月16日		昭和9年5月26日	
3305		昭和8年4月5日		昭和9年6月	昭和8年6月休業
3306		昭和8年4月8日		昭和9年12月	昭和8年7月休業
3307		昭和8年5月11日		昭和9年6月	

3308		昭和8年5月11日カ			昭和15年5月休業 15年復
3309		昭和8年5月19日		昭和8年8月26日	
3310		昭和8年7月1日		昭和13年	昭和9年6月休業
3311	54妹	昭和8年9月1日		昭和12年5月26日	
3312	52妹	昭和8年9月29日		昭和13年12月26日	
3313		昭和8年9月29日		昭和9年8月	
3314	52妹	昭和8年10月2日		昭和14年5月5日	
3315		昭和8年11月1日		昭和9年12月	昭和9年9月休業
3316	52妹	昭和8年11月1日			
3317		昭和8年11月11日		昭和9年3月15日	
3318	55妹	昭和8年12月6日		昭和14年7月	昭和13年7月休業
3319		昭和8年12月21日		昭和10年6月14日	
3401		昭和9年3月1日		昭和9年9月	
3402	51妹	昭和9年5月19日		昭和15年	昭和14年9月休業
3403	44妹	昭和9年6月			昭和14年9月休 15年5月復業 7月休 16年5月復
3404		昭和9年8月1日		昭和9年9月14日	
3405		昭和9年8月2日		昭和14年10月10日	昭和13年6月休業
3406		昭和9年9月1日		昭和13年12月17日	昭和13年7月休業
3407		昭和9年9月6日		昭和9年12月18日	
3408		昭和9年10月4日		昭和13年6月9日	昭和12年10月一時不納
3409	52妹	昭和9年10月16日			
3410		昭和9年11月2日		昭和11年10日	昭和10年4月休業
3411		昭和9年11月6日		昭和10年8月20日	
3412	51妹	昭和9年12月1日			昭和12年10月一時不納 12月復業 13年4月休業 14年12月復業
3413		昭和9年12月2日			
3414	51妹	昭和9年12月18日		昭和14年12月18日(死去)	昭和10年9月休業 10月復業 12年12 月不納 13年5月復業
3501		昭和10年1月7日		昭和11年5月19日	
3502		昭和10年1月7日			昭和12年9月一時不納 13年2月復業
3503		昭和10年3月19日		昭和11年12月1日	昭和11年6月休業 9月復業
3504		昭和10年5月16日		昭和13年10月8日	
3505		昭和10年7月11日			昭和14年3月休 10月復業 15年6月休 10月復業
3506		昭和10年8月20日		昭和15年5月6日	昭和15年4月休業
3507		昭和10年8月31日		昭和12年6月18日	
3508	56妹	昭和10年8月31日		昭和15年5月29日	昭和14年11月休業
3509		昭和10年9月13日		昭和10年12月	
3510		昭和10年10月1日		昭和11年2月	昭和10年11月30日休業
3511		昭和10年10月1日		昭和11年1月31日	
3512	42妹	昭和10年10月4日			

3513	49妹	昭和10年11月2日			
3514		昭和10年11月5日		昭和13年3月12日	
3515		昭和10年11月12日		昭和11年7月22日	
3516		昭和10年12月		昭和11年12月	昭和11年3月不納
3517	57妹	昭和10年12月13日		昭和16年4月	昭和11年9月休業 11月復業 15年3月休業
3601		昭和10年12月27日		昭和12年4月9日	
3602		昭和10年12月29日			
3603		昭和11年3月16日		昭和11年5月19日	
3604		昭和11年4月22日		昭和11年8月15日	
3605		昭和11年5月12日		昭和11年10月	
3606	51妹	昭和11年6月1日			
3607		昭和11年8月7日		昭和14年9月16日	昭和14年5月休
3608	23妹	昭和11年9月1日			再(自大正14年7月 至昭和10年11月) 昭和12年9月休業 13年1月復業
3609		昭和11年9月1日		昭和13年8月	
3610		昭和11年10月7日		昭和12年3月26日	
3611		昭和11年11月2日		昭和13年5月11日	昭和12年9月一時不納 13年2月復業
3612		昭和11年11月7日			
3613	55妹	昭和11年11月9日		昭和16年4月	昭和12年9月休業 13年3月復業 5月休業
3614		昭和11年11月12日		昭和12年9月	昭和12年9月一時不納
3615		昭和11年11月16日		昭和12年3月31日	
3616		昭和11年12月3日		昭和12年4月19日	
3617		昭和11年12月3日		昭和12年9月	昭和12年9月一時不納
3618		昭和11年12月11日		昭和12年4月1日	昭和12年1月不納
3619		昭和11年12月16日		昭和12年2月2日	
3701		昭和11年12月26日		昭和12年3月27日	
3702		昭和12年1月8日		昭和12年3月22日	
3703	52妹	昭和12年2月8日		昭和14年10月16日	
3704	55妹	昭和12年3月25日		昭和16年8月	
3705	44妹	昭和12年4月3日			昭和15年6月休業 9月復業
3706		昭和12年4月12日			再(大正10年12月 15年7月不納)
3707		昭和12年6月2日		昭和12年11月26日	
3708		昭和12年7月5日			昭和13年6月休業 9月復業 15年7月休業
3709	03妹	昭和12年9月3日			再(自昭和6年12月 至9年6月)
3710	52妹	昭和12年9月10日		昭和13年11月	再(自昭和10年11月 至11年7月)
3711		昭和12年9月17日		昭和12年12月27日	
3712		昭和12年11月4日		昭和13年7月	
3713	51妹	昭和12年11月10日		昭和13年4月25日	

3714		昭和12年11月11日		昭和15年11月9日	(2023 自大正9年12月 至昭和6年12月) 昭和15年8月休業
3715	44妹	昭和12年12月3日			(昭和5年開業) 昭和15年6月休業 12月復業
3716	58妹	昭和12年12月18日			昭和13年2月休業届 5月復業
3717		昭和12年12月24日			再々(昭和4年再業 8年8月廃)
3801		昭和13年1月18日		昭和14年4月20日	
3802		昭和13年1月19日		昭和14年1月18日	昭和13年9月休業
3803	44妹	昭和13年2月4日			再(2805 自昭和3年3月 至8年8月)
3804	55妹	昭和13年2月16日		昭和16年4月	昭和14年6月不納
3805	59妹	昭和13年2月16日			
3806		昭和13年3月1日		昭和13年6月1日	
3807		昭和13年3月17日			
3808	56妹	昭和13年3月26日		昭和15年4月10日	
3809		昭和13年4月6日		昭和16年3月	昭和13年10月休業
3810	60妹	昭和13年6月29日		昭和16年3月	
3811	61妹	昭和13年6月30日		昭和14年11月16日	昭和14年3月休
3812		昭和13年9月12日		昭和16年4月	昭和15年1月休業
3813	61妹	昭和13年10月		昭和14年10月4日	
3814		昭和13年11月2日		昭和14年3月17日	
3815		昭和13年11月2日			
3816		昭和13年12月17日		昭和15年11月	
3901		昭和14年1月4日			再(昭和8年9月開 13年12月廃)
3902		昭和14年1月16日		昭和16年1月28日	再(昭和12年11月 13年4月マデ) 昭和15年2月休業
3903		昭和14年2月2日		昭和14年3月	再(自昭和10年2月 至11年12月)
3904	60妹	昭和14年3月13日			
3905		昭和14年4月1日		昭和14年10月9日	
3906		昭和14年4月22日			
3907		昭和14年5月2日			
3908	61妹	昭和14年5月20日			
3909	57妹	昭和14年7月10日			
3910		昭和14年9月11日			
3911		昭和14年9月16日		昭和16年4月	
3912		昭和14年10月2日			
3913		昭和14年11月17日		昭和14年12月24日	
3914		昭和14年11月26日		昭和14年12月15日	
3915		昭和14年12月7日			昭和15年7月休業 12月復業
4001	62妹	昭和14年12月27日		昭和15年10月8日	
4002		昭和15年1月18日			昭和15年5月休業
4003		昭和15年2月6日			再(2908)

4004	60妹	昭和15年2月7日			
4005	62妹	昭和15年3月20日			
4006	60妹	昭和15年4月10日			
4007		昭和15年6月3日			
4008	42妹	昭和15年7月10日			
4009		昭和15年8月30日		昭和16年3月	
4010		昭和15年8月30日		昭和16年4月	開業 同年休業
4011		昭和15年9月29日			
4101		昭和15年12月26日			
4102	59妹	昭和15年12月29日		昭和16年9月	
4103		昭和16年2月15日			再
4104		昭和16年9月			再々
4105		昭和16年9月			
4106		昭和16年10月3日			
4107		昭和16年10月6日			
4108		昭和16年11月20日			